



地球のいのちの営みと調和、融合して
共に生きるコミュニティづくりの情報を発信する

いのちの森通信

公益財団法人
いのちの森
文化財団



Vol. 55

2024. Feb.
令和6年2月1日発行
編集 千葉彩乃
高木愛加
加藤晴基

発行 / 公益財団法人いのちの森文化財団 〒380-0888 長野市大字上ヶ屋 2471 番地 2198 TEL 026-239-0010 FAX 026-239-0011
ホームページ <http://inochinomori.or.jp> Eメール zaidan@inochinomori.or.jp

宇宙の叡智を地球と人類の目覚めのために 人間の霊的本質をひらく シリーズ8

人は何のために生きるのか
人類の道筋と人はどこへむかうのか
生き方を変える みんなのために
じぶんのために

風の時代を生きる IV

宇宙の叡智を地球と人類の目覚めのために シリーズ8の開催意義

塩澤 研一



(公財)いのちの森文化財団代表理事
(株)水輪ナチュラルファーム 代表取締役



宇宙の叡智シリーズ5 五島先生の講義

さてこのような世相に於いて私たちはどのようにしたら真実に目醒め、人間として正しい生き方ができるのでしょうか。「宇宙の叡智を地球と人類の目覚めのために」のシリーズはこのような問題意識からスタートしました。この企画の中で私たちが講師としてお願いした先生方に対して留意した

この3年間に起こった様々な出来事に対してその受け止め方は人により大きく異なり、また事象に対する判断も大きく分かれていきます。今まで正しいと思っていた組織の実態が明らかになってきたり、マスメディアの報道内容がネット報道と真逆であったり、人間のための医療であったと思ってきたことが医療産業の利益のための施策であったり、選挙制度や市場調査なども果たしてこれが事実なのかどうか怪しくなってきたり、様々な情報操作は人々の心を分断し疑心暗鬼な世の中になっています。

人類の歴史は5百万年とも7百万年とも言われていますが、本当のことはわかりませんが、古代史を紐解くという作業は膨大なエネルギーを費やします。生命の誕生から人類の誕生まで何十億年という歳月を経て人類は誕生したと言われているにもかかわらず、本当の事はなかなか解らないのが実態なのではないでしょうか。この地球、宇宙の意思は人類に対してどのようなことを示しているのでしょうか。そして個人個人に対してこの宇宙の意思がどのように働いているのか大変興味があるところだと思います。

この3年間に起こった様々な出来事に対してその受け止め方は人により大きく異なり、また事象に対する判断も大きく分かれていきます。今まで正しいと思っていた組織の実態が明らかになってきたり、マスメディアの報道内容がネット報道と真逆であったり、人間のための医療であったと思ってきたことが医療産業の利益のための施策であったり、選挙制度や市場調査なども果たしてこれが事実なのかどうか怪しくなってきたり、様々な情報操作は人々の心を分断し疑心暗鬼な世の中になっています。

この一つに「違いがあつてよい」という点でありました。当然主催者である私たちも「違い」があるのは事実です。同心円的に流れを作っていくのではなく、様々な波動の違いを認めつつも、個々が微細なエネルギーに進化していけば共振現象が起きてくるであろうことを意図しました。さらに個々もその「違い」を学ぶことで深化成長していくことも願つての展開でした。必ずしも自分にとって心地よいことばかりではありません。何気なく発した言葉も本人の本心が伝わるとは限りませんし、思わぬ誤解を生じ、とんでもないところまで行ってしまうということがあります。

そのような様々な出来事を通して一人一人が自己を深めていければとの思いが宇宙の叡智を地球と人類の目覚めのためにというこのシリーズを支えています。振り返ってみれば私自身の人生も「波乱万丈」人生であったと思えますが、団塊世代である私たちの時代は第二次大戦後の価値観の大きな転換、高度成長経済と政治の混乱対立を経て時代は資本主義と社会主義(保守と革新)という二元対立の時代からグローバルizm、反グローバルizm(多民族主義)の時代に転換しようとしていた中에서도、やはり人間の精神、私達は二元対立の域を出ていません。

霊性文明の夜明けは、正義と悪という対立構造ではなく、科学と宗教という対立でもなく、まさしく宇宙意識への回帰が求められているようにも思っています。最近とみに言われている「宗教を超える」といふ考え方もこの流れを言い当てているのではないのでしょうか。二元対立の時代から大いなる

地球上における人類を支配している支配層は、まだ目覚めていない人間の習性を利用し、世界を混乱させ、戦争まで行ってしまうことがあります。つまり、地球上における問題は地球人の問題であり、人間が起している結果なのだとこのことを知る必要があります。

私がこの意識に気づいてきたのは何よりも最重度のハンディーを背負って生まれてきた一人娘の存在がありました。このいのちを授かった意味は何なのだろうかとの問いに対し、それを求めつつ生きてきた人生でもあったと思います。娘に与えられた過酷な試練は、娘一人の課題ではなく、同じような課題は、現象として表に現れてくることはそれぞれであつても、本質は地球上に起こる様々なテーマは、同質の問題であり、それぞれに与えられた課題は、全ての人々が越えていくべき課題でもあり、人類全体の課題でもあると思うのです。

私が33歳の時に不思議な縁によつて標高1050メートルの飯綱山の麓に暮らすようになり、まさしく放り込まれたというような感覚でした。10年という臥薪嘗胆の時期を経て水輪という小さな活動からスタートし、43年を経て現在のような規模の活動に進化させて頂いてきましたが、なぜこのようなことが出来たのかは今だに不可解な事なのです。大いなる宇宙意識の働きが無ければこのような事ができるわけがないといまだに思っています。つまり不可解なことと思つていたことは、長い苦しみの中にたどり着いた心の境地の鏡が写し出されたものであつたことに気付いたのです。すべては大いなる宇宙の法則性、神の恩寵に生かされていたのです。それは宗教や科学、哲学を越えた存在と

して連続と続いてきた大いなるいのちの営みであり、唯物的な世界から唯心的な世界を表していることでもあつたのだと思います。水輪の会を設立し、約30年前の最初に企画したのが「宇宙生命大賞」という企画でした。人類の意識の進化をテーマとして様々な学びの会を開催してきましたが、20年前から「いのちの森構想」として自然農を推進する「水輪ナチュラルファーム」の設立、宿泊飲食業の有限会社グリーンオアシスの設立、教育文化事業を行う公益財団法人いのちの森文化財団、健康増進活動としてのいのちの森クリニック、青少年の社会復帰支援活動としての「生き方働き方の学校」社会教育事業を行う「水輪の会」の活動をいのちの森構想として推進してきました。



森井先生と光田先生の夢の対談

この延長線上には衣食住の自立(食料・水・エネルギーの確保)と学びと自己研鑽、遊びとアートの生活化など新縄文的な生活空間の創造などを目指した活動に向かつていくのであろうと思つていきます。

このいのちの森構想の最終章としての「シェアハウス構想」はまだ時代の流れを読み切らなければ着手するところまでは行っておりませんが、すでに土地は確保されていますので建設資金の調達に加えて運営方法についての検討が課題であり、その中心となるのは一人一人の霊性の目覚めです。そのための学びを深めていかなければなりません。すべては「心にはじまり、心に終わる」と私達の経営の師匠、故稲盛和夫氏(前京セラ創業者、KDDI創業者)の言葉にもあります。一人一人の心の在り方が大切なのだと思つています。時代は大きく変化しているようにも思いますが、とりわけこの3年間の動きは人類を二分するような出来事が起こっているようにも思いますが、この世は心の鏡が映し出された映し世とも言われております。このような時代の間にあつて「宇宙の叡智シリーズ」の果たす意味合いは大変大きいと感じています。

5月の連休に開催予定ですが、講師にはホメオパシー協会会長の森井啓二先生、ケイシー療法の光田秀先生、呼吸道の清水友邦・ブラダご夫妻、国連平和人権大使の奥健一郎氏、物理学者の五島秀一先生、アーティストのAika橋本恵子さん、そして経済界からは、致知出版の編集長、藤尾允泰氏(塩澤みどりと30年のお付き合いのお父様の藤尾秀昭社長もお誘いしております。という豪華メンバーを予定しています。第7回の宇宙の叡智シリーズでは「新縄文文明の夜明け」として来るべき未来社会を平和と信頼を根底にした人類の意識の深化・進化を実現しようとの意志が確認されました。そして8回シリーズからは講師と参加者という枠を越えて交流、発信できるような設定を考えています。ぜひとも大勢の方々のご参加をお待ちしております。

この延長線上には衣食住の自立(食料・水・エネルギーの確保)と学びと自己研鑽、遊びとアートの生活化など新縄文的な生活空間の創造などを目指した活動に向かつていくのであろうと思つていきます。

このいのちの森構想の最終章としての「シェアハウス構想」はまだ時代の流れを読み切らなければ着手するところまでは行っておりませんが、すでに土地は確保されていますので建設資金の調達に加えて運営方法についての検討が課題であり、その中心となるのは一人一人の霊性の目覚めです。そのための学びを深めていかなければなりません。すべては「心にはじまり、心に終わる」と私達の経営の師匠、故稲盛和夫氏(前京セラ創業者、KDDI創業者)の言葉にもあります。一人一人の心の在り方が大切なのだと思つています。時代は大きく変化しているようにも思いますが、とりわけこの3年間の動きは人類を二分するような出来事が起こっているようにも思いますが、この世は心の鏡が映し出された映し世とも言われております。このような時代の間にあつて「宇宙の叡智シリーズ」の果たす意味合いは大変大きいと感じています。

5月の連休に開催予定ですが、講師にはホメオパシー協会会長の森井啓二先生、ケイシー療法の光田秀先生、呼吸道の清水友邦・ブラダご夫妻、国連平和人権大使の奥健一郎氏、物理学者の五島秀一先生、アーティストのAika橋本恵子さん、そして経済界からは、致知出版の編集長、藤尾允泰氏(塩澤みどりと30年のお付き合いのお父様の藤尾秀昭社長もお誘いしております。という豪華メンバーを予定しています。第7回の宇宙の叡智シリーズでは「新縄文文明の夜明け」として来るべき未来社会を平和と信頼を根底にした人類の意識の深化・進化を実現しようとの意志が確認されました。そして8回シリーズからは講師と参加者という枠を越えて交流、発信できるような設定を考えています。ぜひとも大勢の方々のご参加をお待ちしております。



白鳥シネマ映画館にて、白鳥監督作品「祈り」の上映



火祭り 湖上花火と Aika 氏の歌声の饗宴

霊性文明の夜明け

量子モナド理論

この世は、すべて心の鏡写しだった？
—心と量子物理の関係性—

はせくらみゆき

画家・作家・音楽歌人



「この世界は、宇宙は、いったい何からできているのだろうか？」小学生の頃、お友だちと遊ぶよりも、そんなことを考えることのほうが好きだった私は、「ちゃん」と変わった子だった。いつしかその興味が、芸術と科学へと移行し、現在へと至っている。

このたび、天才物理学者である保江邦夫博士との共著で「愛と歓喜の数式—量子モナド理論は完全



宇宙の叡智7 はせくら先生の講義

調和への道(明窓出版)という本を上梓させていただいた。物理系の本としては二冊目で、一冊目が「宇宙を味方につけるこの世界の神秘と量子の力」という本だった。一冊目の「この世界の神秘」のほうは、主に「人間原理」について語ったもので、人間原理とは「宇宙やこの世界は、それを人間が認識するから存在している」というものだ。次の本は、この概念を踏まえつつ、量子物理の最新研究である「量子モナド理論」を紹介している。「量子モナド理論」を一言でいおうとすれば、空の空間に移動する量子が、再び全き愛の完全調和へと向かうプロセスを体験しているのだという。



はせくら先生の紐を使ったワーク

界が存在していることになるのだ。つまりは、歓びの宇宙もあれば、哀しみの宇宙もある。また、その瞬間瞬間が持つ波動関数の収束によっても、異なる時空が現れる。そんな永遠の今を生きる宇宙は、さらなる大きな一つの中に含まれており、その単一なる空間概念を「モナド」といい、私たちはこの「モナド」の中の構成要素としての我を生きているのだという。

「霊性文明の夜明け」

奥健一郎

国連世界平和人権大使
欧州連合国際外交団
前鹿児島大学稲盛アカデミー教授



現代は、まさに混沌の時代である。そのために、どのような方針で打開していけばいいのか、未だ暗中模索しているのが現状である。本稿では、この根本的課題の解決に向けて「霊性文明の夜明け」を採り上げ、いのちの森・水輪で行われている自然農法とリーダー育成の必要性及びその根拠について述べることにする。

求める学者連中の論説は、私は採らない。よくよく目を開いて、天地の経文を拝見して、これを誠にする道をたずねるべきだ。世の中で、横に平らなものといえば、水面が一番間違いない。縦にまっすぐなものといえば、垂針が一番間違いない。おおよそそのような古動かぬものがあればこそ、地球の測量もできるのだ。これをよそよそしくして測量の術を測る法や、算術の九九のようなものを、みんな自然の法則であって、万古不変のものだ。こういうものによつてこそ、天文も考えられるし暦法も計算できるものであって、こういうものはずしたら、どんな知者でも、術を施すすべからぬだろう。

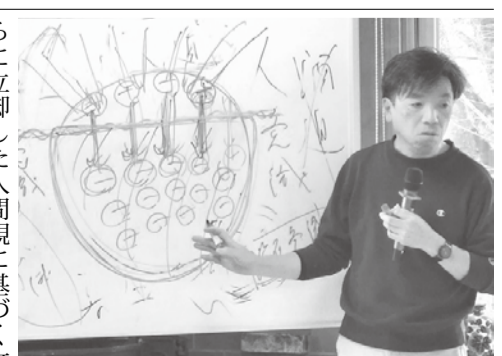


二宮尊徳翁 (1787-1856)

現代は、多くの人が倫理観や論理を主張し、そのたびに争いが起き、人は迷い続けている。この点、尊徳は、まず、大自然から見いだされる天道を、まことの道として確立することが不可欠であるとす。さらに、そこから尊徳は、この「天道」と「人道」の定義の違いを明確にする。これは尊徳の教えの根幹となるものである。

参考文獻
●「二宮翁夜話」(致知出版社)
※1 夜話(一) ※2 夜話(四六)

混乱した現代においては、現代にふさわしい人間観が必要である。この霊性文明の人間観で育った若者が独自の個性を花開かせ、国際情勢を学び、経済を修め、世界に飛躍することが必要である。そして、以上の流れに鑑みても、これを最初に遂行する国は日本以外にはあり得ない。



奥先生の情熱が入った本質に迫る講義

宇宙の叡智を地球と人類の目醒めのために シリーズ8

地球と人類の調和と霊的進化を開く 霊性文明の夜明け —みんなで新しい精神文明を開こう！— 2024年5月3日(金祝)～6日(月祝)

人間を幸せにするのは物やお金ではないらしい。量子力学の発展により
こころや魂を証明する科学者たち。目に見える物質だけでなく
見えない世界にも目を向けよう。宇宙太古の叡智を通して意識が覚醒、生命力が飛躍。
私たちは本来霊的な存在であり霊性は生老病死を貫いています。



森の音楽堂「喜輪」

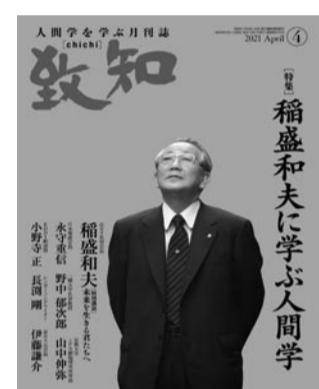


私達は、見えない世界の存在
たちと共に、この世界を創り上げ
ています。宇宙の叡智シリーズ8
では、神社をしっかりと活用し
て、霊性を引き上げる秘訣をご紹介し
ます。人がさまざまな場所に行っ
てただの観光ではなく、「心がどの
ように動くのかをよく観察するこ
と」「心にとどくような反応があるの
かを体感すること」それを心がけ
ることによって私達は学び成長
することが出来ます。神社で執り
行われる儀式はその痕跡から生命
エネルギーの根幹や自然界の精霊
たちを重要視したものであったよ
うです。また、今では形骸化して
しまった神社での習わし(お賽銭
拍手、絵馬など)の本当の意味を
知っていただき、参拝の際に活か
して頂きたいです。

しんでん森の動物病院院長
日本ホメオパシー協会会長
『神の詩』『光の魂たち』
『臨床家のためのホメオパシー・
マテリアメディカ』



森井啓二氏
基調講演
神の国日本の良きを見直す



何のために生きるのか？ 過
去にも未来にもたつた一つしか
ない命をどう使うのか？ それを
「古典・歴史・人物」を通じて
学ぶのが人間学です。何千年も
の風雪に耐えて読み継がれる古
典、先達たちの努力の積み重ね
によって築かれてきた歴史、年
齢や立場に拘らず心を磨き高め
一隅を照らして生きていく人物。
そこには時代や国柄をこえても
変わらない原理原則、あらゆる
人に共通する普遍的なあり方が
凝縮されています。様々な内憂
外患を抱え、変化の激しい転換
期に直面している今こそ、心の
よすがとなる道標、つまり人間
学がより一層求められるのです。

月刊『致知』編集長
大学卒業後、父親の藤尾秀昭が代
表を務める致知出版社に入社。
これまで約一千名の取材に携わる。
人間学を学ぶ月刊誌『致知』は
創刊45年を迎え、
有名無名や職業の分野を問わず、
各界で一道を切り開いてこられた
真実の人の体験談と共に
そこから掴んだ叡智を毎号紹介。



藤尾允泰氏
基調講演
幸福に生きる人間学



「寿命の科学」という意味を持つ
アーユルヴェーダ医学は、最高峰の
治療として、若返り療法を掲げてい
ます。それは、病気の治療だけでな
く、健康のさらなる先である、若返
りと長寿を目ざし、その中で霊的進
化を果たすことを目的としている
からです。このように、最古の医
学でありながら、哲学と一つになっ
た高度な医学体系を持つアーユル
ヴェーダは、末世である今、霊性を
高める徳を積む行為が2種類ある
といえます。それは、良い行いをす
ること、真の若返り療法を受け
ることです。肉体的若返りと霊的進化
が連動した、太古の霊性文明が蘇り
ます。

インド政府公認アーユルヴェーダ医師
鍼灸あんまマッサージ指圧師
インド医療占星術師
(株)スヴァルナアーユルヴェーダ
代表取締役
(一社)アーユルヴェーダ生命科学研究所
代表理事



澁谷るみ子氏
基調講演
究極のアーユル
ヴェーダ若返り法

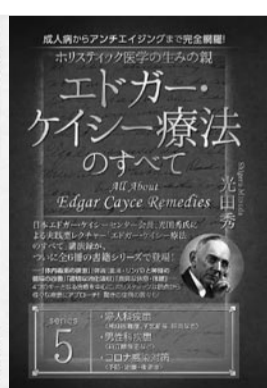


日本病院管理教育会・総合診療師
のAika・サウンドセラピーとは心
身医学の領域で、表面意識と潜在
意識が絶えず影響しあっているよ
うに、心(魂)と身体から「生命の
音」を研究し量子生命学として「調
身(リラクゼーションした姿勢)」「調息
(呼吸の方法)」「調心(心のあり方)」
を基本としたプログラムです。ノー
ベル賞を受賞した物理学者のペン
ローズは、脳細胞には細胞骨格の一
つである微小管(マイクロチューブ
ル)があり、これが意識の源である
と主張し、人間の意識は、神経細胞
ではなく宇宙の成分にその基本が
あると考え、死ぬとマイクロチュー
ブルの量子情報が宇宙に散らばり、
脳内の情報が地球上だけでなく、広
大な宇宙とつながる可能性もあり
ます。また息を吹き返すと脳内に戻
り、宇宙の体験や記憶が臨死体験と
して語られます。私が乳癌と甲状腺
腫、パニック症を自分の声で癒した
0ポイントワールドとの遭遇体
験を考察すると、肉体的記憶を初期
化したと考えています。「生かされ
た命に感謝して」をテーマにお届け
します。

サウンドセラピスト/歌手・作詞・作曲
(一社)千ヶ峰・自由学園理事長
内閣総理大臣認可
(一財)日本病院管理教育会
総合診療師 オフィス・Aika



Aika 橋本恵子氏
コンサート
量子生命学として
古代の言霊を響かせる



エドガー・ケイシーは、もし
人がこの世に霊的思想を普及さ
せようと思うならば、まずはそ
の思想が肉体レベルで恵みをも
たらすことを実証しなければな
らない、と主張しました。その
最大の模範がイエスです。イエ
スの公生涯の前半は、人々の心
身を癒やすことに費やされました。
人々はそれを見てイエスを
信じ、イエスの語る魂の福音を
受け入れるようになったのです。
同様に、今日の日本に霊的目覚
めをもたらそうとするならば、
まずは、われわれのもたらそう
とする霊的情報が肉体次元にお
いて豊かな恵みをもたらすこと
を示さねばなりません。肉体レ
ベルの福音を如何に届けるか
これが霊的文明建設の土台にな
ると信じます。

ケイシーセンター 会長
『神の探求』『エドガー・ケイシー
療法』のすべて155 『神理の扉』



光田秀氏
基調講演
霊的目覚めは
肉体レベルの福音から



私達は今、人類史の大転換期に
います。一人一人の意識が人類
の意識を集合しています。個人
の意識も人類史と連動して根本
的な変容を迫られています。苦
しみが起きて自我の枠組みが激
しく揺り動かされる状態は、自
分を大きく成長させるチャンス
です。今までの古い自我では適
応できないので新しい環境に適
応するためには、いやでも古い
自我を脱皮しなくてはならない
のです。外から植え付けられた
偽りの自我を自分と思い込み、
混乱し葛藤しているのが日常意
識の自分です。人間は、もとも
と目覚めた意識を持つているの
で、頭の中のおしゃべりを止め、
いまここにくつろぐことが出来
ます。頭が沈黙すると、すべて
は縁にしがたがって物事が起きて
いることがわかります。その全
体を見守っているのが本当の自
分です。本当の自分に気がつく
と悲しみや不安、恐怖がやっ
てきても受け止めることができ
ようになります。どんなにひど
い絶望的な状況の中でも大丈夫
だという確信が生まれます。そ
れには体の感覚に注意を向け常
に変化している呼吸から始める
のがやさしいのです。

イハートリブ心身統合研究所 所長
子供の頃から自分が誰なのか疑問を持
ち、探求の道に入る。ヨガ、気功、瞑想、
呼吸法など身体技法を学ぶ。全国で呼
吸道ワークショッップを展開中。



清水友邦氏
基調講演
本当の自分に気づく

次ページへ
女神と出会う冒険の旅を重ねて、
真の自分自身を見出す！
1万年前の遺文の半信半疑は、女が中心を握っていた。
はるか昔、アマテラス、セオリツ、ニギハヤヒは
隠れた神々の旅を解き明かす。
これからの女性性の時代を提議する！



奥健一郎氏 基調講演 霊性文明の夜明けに向けて



大学卒業後、財務省国際金融業務等に従事。ミシガン大学大学院応用経済学修士。公財松下政経塾入塾。公財中村天風財団理事を経て、国立鹿児島大学稲盛アカデミー教授に就任。大阪府泉大津市教育委員、欧州連合国際外交団、国連世界平和協会人権大使、日本国際警察協会サポーター会員。

今、人類は長い歴史を経て、その存亡をかけた大きな転換と選択を迫られています。その危機を乗り越えて止めるような妥協的動きがでては、またそのそばから新たな危機が生まれてきています。このような場合、その度に個別具体的な政策を加えるだけの「継続的改善」の積み重ねだけでは限界があり、「フェーズそのものを変える」という発想と戦略が必要です。その「急所の一点」が霊性文明の夜明けである、ということなのです。またそれは、人間の本来のものの原動力に立ち帰る、ということでもあります。その本質とは何か？なぜそれが全てに通ずる急所なのか？また、それを実現するにはどうすればいいのか？本講演では、それに焦点を当てていきます。

五島秀一氏 基調講演「オールネス」 全宇宙の魂の流れ



天才宇宙物理学者
(一財)物理学研究所代表
超越気功協会会長
中小企業診断士
経営コンサルタント

世界というのは、集中統合の動き（流れ）と、分裂拡散の動き（流れ）の世界衝動というものがあります。集中統合する時は文明は発達しますが、同時に人間のエゴを増長させ、戦争や飢饉という、少数派が苦しむ世界を生み出します。その反面、分裂拡散する時は多様化の方向へ向かい、文明は停滞するかもしれませんがエゴは消滅していきいます。私たちが呼吸においても、息を吸うと集中統合一息を吐くとあらゆる方向に拡散していきます。一個人の魂のパーソナリティにおいても、統合集中と分裂拡散は、繰り返す生命のプロセスです。その観点から見れば、魂とは統一されたワンネスではなく、多様化された「オールネス」だと言えるでしょう。宇宙史から見ると、魂が流れていたのが地球であり、やがて、すべての魂のパターンが融合していきいます。

5次元宇宙の物理学
五島秀一

大統一場理論
五島秀一

Pioneering Unified Field Theory of Nature

Dr. Shu's
宇宙力
五島秀一

清水プラダ氏 コンサート 今この喜び、響きあう喜び



ソウルサウンドライアー奏者
呼吸道インストラクター
39歳で脳腫瘍になり現在も共存中
自ら発生する声を身体に響かせる
ライフソングと呼吸道を伝えています

この度、水輪の塩澤みどり先生よりお声がけをいただき貴重な機会をいただき感謝いたします。琴（ハープ）は古代より神託、祈りのツールとして使われてきました。432Hzに調弦されたアンドレアス・レーマンのソウルサウンドライアーの響きは、水の波紋のように魂の奥深くまで伝わり、静寂な心を呼び覚ましてくれることと思います。本来の自分に気づくことを助けてくれることで、心からの感謝の気持ちと、いのちの素晴らしさを奏でたいと思います。皆様と響きあいたいと思います。

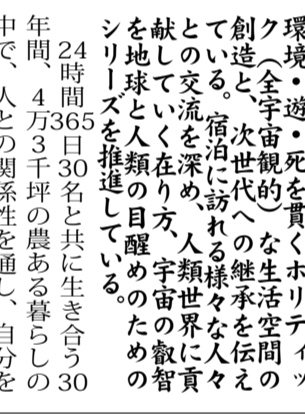
音霊 呼吸道
塩澤研一氏

大地自然と共に生き入るいのちの森
コミュニティ。農ある暮らしを通して、
真の心の安らぎ、平安を探求。

OTODAMA KOKYUDO
Breathing and sound spirit paths to awakening

音霊 呼吸道
Yuho Shimizu / Hiroki Okano
feat. Prada Shimizu

塩澤みどり氏 新しい縄文的霊性文明共同 体を目指して。現在住んで いる飯縄の縄文の先祖達が住 んでいたところですよ。



（公財）いのちの森文化財団 代表理事（株）水輪ナチュラルファーム 代表取締役 人間の本来の生き方を目指し、医療・教育・文化・芸術・科学・経済・農・衣食住・環境・遊・死を貫くホリテイック（全宇宙観）な生活空間を創造し、次世代への継承を伝えている。宿泊に訪れる様々な人々との交流を深め、人類世界に貢献していく在り方、宇宙の叡智を地球と人類の目覚めのためのシリアルズを推進している。

24時間365日30名と共に生き合う30年間、4万3千坪の農ある暮らしの中で、人との関係性を通し、自分を見つめ、深め、気づき、癒やし、自己に安らぎ、自他を超え、意識という叡智を深め、血の繋がりを超えた大家族として共に生き合う霊性を高める生活とオーガニックコミュニティの中で生きています。

物質至上主義が限界を超え、人間を真に幸せにするのは、どうやら物やお金ではないらしい。物に溢れた社会が、人の心を蝕み、孤独を助長させています。いのちの森の水自然農園には、心を失い、心を取り戻したい若者たちで溢れています。私たちは世俗的な物やお金や名誉よりも心から喜び合える心の豊かさや、仲間の繋がりを求めて集まって来た人々です。365日寝食を共にし、共に学び、共に苦しみ、共に歩んで行く日々の中に、人と人が繋がりが合い、助け合い、深め合い、補い合い、笑い合い、気付き合い、学び合う生活を共にしています。こちらは1万何千年続いたという縄文の人たちのころに何か似ているような毎日かなあと思いつながら暮らしています。

満月の夜にお月様を見たり、星の夜空を見上げ、静寂に浸っていると大切なことが見えてきます。新しく生き方を変えたいと思っている人は、水輪に来て、青空や新緑の風を感じて下さい。鳥のさえずりを、月見草の花開く音を聞いてください。

輪のおりさん
さおりさん

水輪のキセキ

現代人の伝記2

早稲理ひとすくいの愛

黒木瞳さん推薦

【今年もたくさんの方の講座を開催予定】
ぜひ水輪で、新しい学びと気づきを皆様のご参加をお待ちしております。
詳細は↓
水輪ホームページから
<https://sunin.com>

直観力養成講座

霊性の医学 ホメオパシー

レゾナンス

霊性文明の夜明け

公益財団法人いのちの森文化財団からのお知らせ

公益財団法人いのちの森文化財団では、以下の公益目的事業への寄附金を募集しています。

- ①「高齢者のための生きがい創造基金への寄付」
- ②「青少年の社会復帰と自立のための育成活動への寄付」
- ③「東日本大震災被災地の子供たちの教育を支援する活動（保育園へのお野菜支援含む）」
- ④「いのちの森の会費（一般寄付）」

※当財団への寄附金及び会費は、特定公益増進法人への寄附金として、所得税・相続税・法人税の税制上の優遇措置があります。また一部の自治体では、個人住民税の寄附金控除の対象となります。（詳細は善意の循環のチラシをご覧ください）

【ご支援の方法】

▼郵便振替用紙にてお振込みの場合は、振替用紙に寄附先①～④をご記入の上、お振込みをお願いいたします。

▼銀行振込み・電信振込みの場合は、財団事務局までホームページ・メール・FAX・電話（1ページ目参照）にて寄附先①～④をご連絡の上、お振込みをお願いいたします。

【お振込み先】

- ゆうちょう銀行振替口座 00520-3-42181
- 八十二銀行 本店営業部 普通 1093531
- みずほ銀行 長野支店 普通 1991794

いずれも名義は「公益財団法人いのちの森文化財団」

